

特別活動 「手話教室」

大和市立柳橋小学校



単元（題材）目標

- 障がいのある人と直接触れ合い、活動することを通して、共に生きる仲間として理解しあい、自分にも何かできるのではないかという意欲をもつ。
- 手話という手段について理解し、相手のことを考えながら、進んでコミュニケーションを図ろうとする。

(1) 実施時期 10月19日

(2) 対象（学年等・人数） 第4学年 89名 小学校教員 7名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任 3名 外部講師：大和市ボランティアセンター講師 6名

(4) 実施内容

- 講師の話：「聴覚障がいについて」（各学級）
 - ・聴覚障がいの方が困ること。（手話通訳あり）
 - ・自己紹介（あいさつ、学生生活の中で取り組んだスポーツ、現在の職業など）
- 手話体験：各学級で手話実践
 - ・各学級に講師1名（聴覚障がいの方）
ボランティア1名（「大和ボランティアセンター」の方）
 - ・簡単な会話（自分の名前、学校名等） ・手話に関する基本的知識
 - ・ジェスチャーによるゲーム ・手話における拍手の仕方
- 「手話教室で学んだことを今後の生活の中でどのように生かしていくか」という視点から振り返る。
- ※ 自分から相手に伝えようとする気持ち、また、相手が伝えようとすることを分かろうとする思いやりの気持ちを大切にしようとするような指導を心がけた。

(5) 成果

- 手話についての理解と思いやりの気持ちを深めることができた。
- 手話に興味をもち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

〈児童感想 一部抜粋〉

僕は手話学習をやってみて、最初は静かでやっぱり言葉がないと寂しいなと思いました。でも、みんなに手話を教えているときや、ゲームをやっているときはたくさん笑っていたので、やっぱり耳が聞こえなくても、周りの人が親切にしていれば、耳が聞こえない人ともいっしょに笑い合えるんだ、ということが分かりました。僕はこれからいろいろな人に親切にしたいと思いました。

耳の聞こえない人は不便なことがたくさんあるとわかりました。でも、いいこともあると思いました。なぜなら、優しい人にたくさん出会えるからです。友達になってくれたり、「電車は来ないよ」などと教えてくれたりする人がたくさんいます。だから、助けてあげたいという気持ちをもって困っている人を助けたいです。

(6) その他

総合的な学習の時間において、年間を通じて福祉学習に取り組んでいる。